

2021 年度学位記・修了証書授与式 理窓会会長祝辞

本日ここに、東京理科大学を卒業、修了される皆さま、誠におめでとうございます。

理窓会を代表し、心からお祝い申し上げます。

私は今から半世紀前の、一九六八年の卒業生ですが、伝統ある東京理科大学の卒業生になったことを誇りに、学位記授与式に出席したことを昨日のこのように覚えております。

当時の東京理科大学も「実力主義」で、甘さは許されず、特に実験や研究などのレポート作成では苦労しましたが、その経験がのちの人生で大いに役立ちました。

皆さんはこれから、学生時代と違った厚く高い壁に何度もぶつかるかと思いますが、その時「心の拠り所」となるのが、学び舎で身に付けた自信と、ご指導いただいた恩師、共に学んだ学友達です。

「科学には国境がないが、科学者には祖国がある」との言葉を残された先人がおりますが、東京理科大学は皆さんの祖国であり、「心の故郷」となるでしょう。折りに触れ、恩師やともに学んだ友との学園生活を思い起こしてください。

皆さんは今日から卒業生の会である「理窓会」の会員になります。これまで二十二万人が卒業・修了し、世界中で活躍しています。

世代や業種・職種は違っても、同窓であるだけで親近感を覚えるものです。このことは卒業直後より、むしろ数年後、数十年後により強く感じられるでしょう。

この二年間、新型コロナウイルスにより数々の制約を受け、大変な日々を過ごされたと思いますが、「人生、すべて塞翁が馬」です。目の前のことに一喜一憂せず、その苦難も科学的に捉え、乗り越えてください。自ら描いたビジョンを胸に、新たな夢と目標に向かって大海原に向かって旅立ってください。自ら掲げたゴールにたどり着けるのは「風向き」ではなく、「帆のかけ方」で決まるのです。

皆さんの将来に幸多からんことを祈り、お祝いの言葉といたします。
本日は誠におめでとうございます。

2022年3月19日
東京理科大学
理窓会会長 増渕 忠行